



2月28日の朝。がらんとした体育館にやってきた5年生が、さっそくちらばり、この日の「6年生を送る会」の準備を始めました。

体育館扉の「6年生を送る会」の文字を、いかにバランスよく配置するか(右写真)。ステージをいかに美しく飾り付けるか。子どもたちは、「6年生の目になって見てみよう」と、入場の動きをしたり、少し離れて見てみたりしながら、何度も貼り直しました。こうして出来上がった体育館です。「送る会」が、6年生に喜ばれないはずがありません。



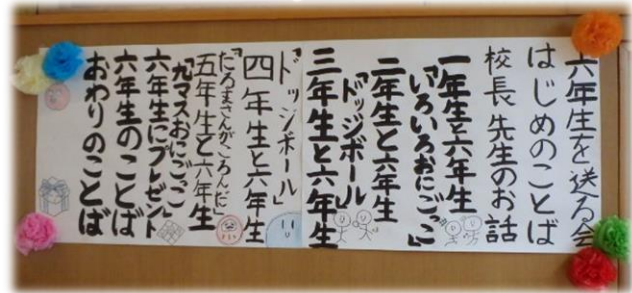
【もうちょっと右?左?それでいい!】

6年生を送る会 —卒業への序章(磨光版)—

体育館前の壁には、プログラムが貼られました。なかなか味のある文字だなと思っていたら、その後、5年生のある子が申告してきました。

「この字、私が書いたんで。上手なやろ。」

上手です。最初から最後まで、一生懸命に書き通したのがよく分かります。太い字と細い字が交互に現れるのも寄せては返す波のようで、動きがあります。今日の日のためだけに書かれた字です。



【プログラム—こんなにいい字はない】



【4年生の「だるまさんが転んだ」】

4年生が6年生と行ったゲームは、「だるまさんが転んだ」でした。でも、ただの「だるまさんが…」ではなく、動く子たちは、いろいろな動物に扮します。カエル、ゴリラ、ヘビ…。ユニークな動きがストップモーションになるおかしさに、応援する側も盛り上がります。

このゲーム、4年生のオリジナルだそうです。みんなを楽しませる名人の4年生たち。1年後の「送る会」の企画が、今から楽しみです。

さて、学年が進むにつれて、少し心配になってきました。ここまでは和やかに進んだものの、5年生と6年生とが一緒にすると、年子の兄弟の如く、妙なライバル心から火花を散らした戦いにならないかと。そこで近くにいた5年生にそっと尋ねてみました。

「6年生と5年生、バトルにならない?」「大丈夫です。頭を使うゲームですから。」

5年生が選んだゲームは「9マスおにごっこ」。このゲームを選ぶまでに、5年生はいくつものゲームを調べ、みんなが楽しめるのはどれか実際にやってみて、試行錯誤の末、このゲームを選んだそうです。心憎いほどの気遣いです。

こうして、「送る会」は幕を閉じ、6年生は、5年生が飾り付けた扉をくぐって退場していきました。卒業に向けての扉をまたひとつくぐったような気がして、はちきれんばかりの笑顔で在校生に手を振る6年生とは裏腹に寂しくなるのでした。



【卒業に向けて、また一步】